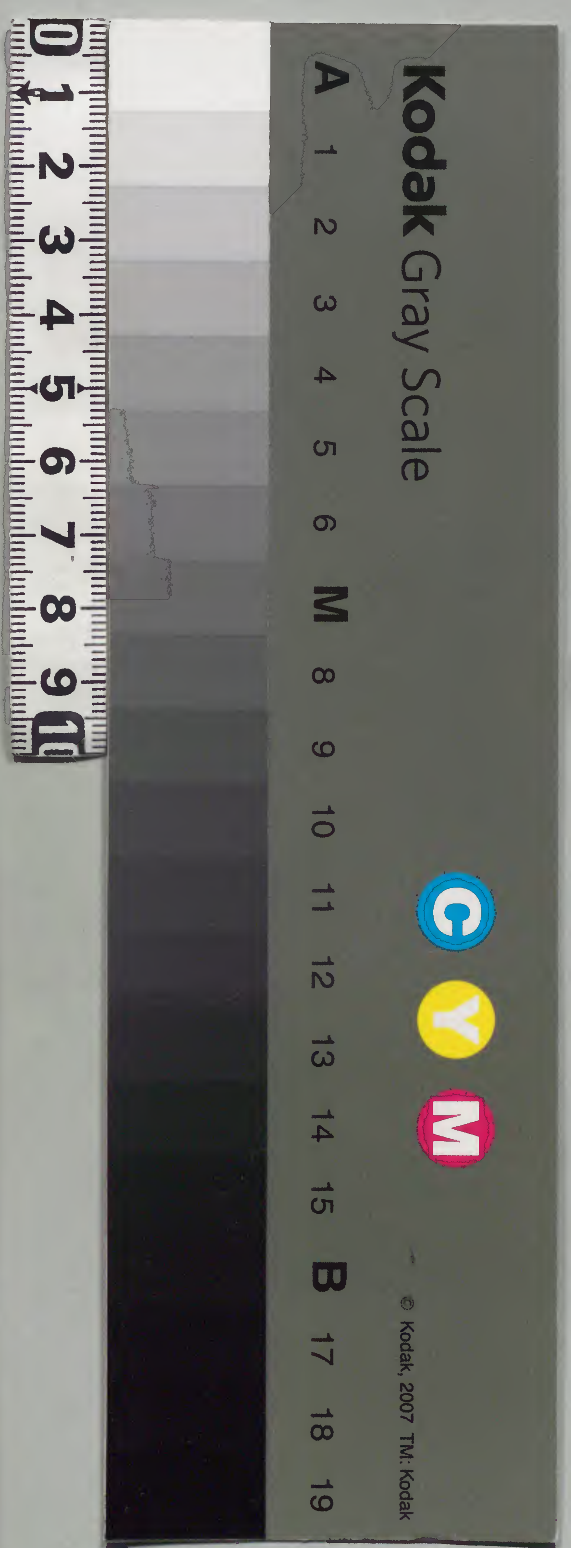


和書門			
二〇	二〇	二〇	二〇
冊	架	函	號

庫文閣内	
二〇	二〇
冊	架

内閣文庫	
番號	和 20434
冊數	20 (4)
函號	263 31



萬葉集卷第四

相聞

難波天皇妹奉上山跡皇兄御歌一首

崗本天皇御製一首并短歌

額田王思近江天皇作歌一首

鏡王女作歌一首

吹黃力自歌二首

田部忌寸櫛子任太宰時歌四首

帥脫聖歌亦同如鏡王等云任筑前寺例次

淺草文庫

柿本朝臣麻呂歌四首

基檀越往伊勢國時留妻作歌一首

柿本朝臣人麻呂歌三首

柿本朝臣人麻呂妻歌一首

阿部女郎歌二首

駿河姝女歌一首

三方沙彌歌一首

丹比真人笠曆下筑紫國時作歌一首 并短

歌

幸伊勢國時當麻呂大夫妻作歌一首

草嬢歌一首

志貴皇子御歌一首

阿倍女郎歌一首

中臣朝臣東人贈阿倍女郎歌一首

阿倍女郎報贈歌一首

大納言兼大將軍大伴卿歌一首

石川郎女歌一首

大伴女郎歌一首

後人追同歌一首

藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌

一首

京職大夫藤原草原磨大夫贈大伴大伴郎女歌三首

大伴郎女和歌四首

○大伴坂上郎女歌一首

天皇賜海上女王御歌一首

海上女王奉和歌一首

大伴宿奈麻呂宿禰歌二首

安貴王戀歌一首并短歌

門部王戀歌

高田女王贈金城王歌六首

神龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈從

駕人所誅娘子笠朝臣金村作歌一首并短

歌

二年乙丑春三月三幸香原離宮之時得娘子笙

朝臣金村作歌一首并短歌

五年戊辰太宰少貳石川朝臣足人遷任餞

于筑前國蘆城驛家歌三首

大伴宿禰三依歌一首

丁生女王贈太宰帥大伴卿歌二首

太宰帥大伴卿贈大貳丹比縣守卿遷任氏

部卿歌一首

賀茂女王贈大伴宿禰三依歌一首

土師宿禰水通從筑紫上京海路作歌二首

太宰大監大伴宿禰百代戀歌四首

大伴坂上郎女歌二首

賀茂女王歌一首

太宰大監大伴宿禰百代等贈驛使歌二首

太宰帥大伴卿被任大納言臨入京之時府

官人等餞卿于筑前國蘆城驛家歌四首

太宰帥大伴卿上京之後滿誓沙彌贈卿歌

二首

大納言大伴卿和歌二首

太宰帥大伴卿上京之後筑後守葛井大成

連悲嘆作歌一首

大納言大伴卿新袍贈攝津大夫高安王歌

一首

大伴宿禰三依悲別歌一首

金明軍與大伴宿禰家持歌二首

大伴坂上家之大嬢報贈大伴宿禰家持歌

四首

大伴坂上郎女歌一首

大伴宿禰稻公贈田村大嬢歌一首

笠女郎贈大伴宿禰家持歌廿四首

大伴宿禰家持和歌二首

山口女王贈大伴宿禰家持歌五首

大神女郎贈大伴宿禰家持歌一首

大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌

西海道節度使判官佐伯宿禰東人妻贈夫

君歌一首

佐伯宿禰東人和歌

池邊王宴誦歌

天皇思酒人女王御製一首

高安王曩鮒贈娘子歌一首

八代女王麁天皇歌一首

娘子報贈佐伯宿禰赤麻呂歌一首

佐伯宿禰赤麻呂歌一首

大伴四網宴席歌一首

佐伯宿禰赤麻呂歌一首

湯原王贈娘子歌二首

娘子報贈歌二首

湯原王亦贈歌二首

娘子復報歌一首

湯原王亦贈歌一首

娘子復報贈歌一首

湯原王人贈歌一首

娘子復報贈歌一首

湯原王歌一首

紀女郎怨恨歌三首

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

大伴坂上郎女歌一首

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

大伴坂上郎女歌一首

大伴宿禰三依離復相歡歌一首

大伴坂上郎女歌二首

大伴宿禰駿河磨歌三首

大伴坂上郎女歌六首

市原王歌一首

安都宿禰年之（是語）歌（歌）一首

大伴像見歌一首

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

大伴坂上郎女歌二首

厚見王歌一首

春日王歌一首

湯原王歌一首

和歌一首 不審作者

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

大伴坂上郎女歌二首

中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首

大伴宿禰家持與交遊別久歌三首

大伴坂上郎女歌七首

大伴宿禰三依悲別歌一首

大伴宿禰家持贈娘子歌二首

大伴宿禰千室歌一首 未詳

廣河女王二歌二首

石川朝臣廣成歌一首

大伴宿禰像見歌三首

大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首

河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首

巫部麻蘇娘子歌二首

大伴宿禰家持贈童女歌一首

童女和贈大伴宿禰家持來報歌一首

栗田娘子贈大伴宿禰家持歌二首

豐前國娘子大宅女歌一首

安都麻娘子歌一首

丹波大女娘子歌三首

大伴宿禰家持贈娘子歌七首

獻天皇歌一首

大伴宿禰家持歌一首

大伴坂上郎女從跡見莊贈賜留宅女子大

嬢歌一首并短歌

獻天皇歌二首

大伴宿禰家持贈坂上家大嬢歌二首

大伴坂上大嬢贈大伴宿禰家持歌三首

又大伴宿禰家持和歌三首

同坂上大嬢贈家持歌一首

又家持和坂上大嬢歌一首

同大嬢贈家持歌二首

又家持和坂上大嬢歌二首

更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首

大伴田村家之大嬢贈姊坂上大嬢歌四首

大伴坂上郎女從竹田莊贈賜女子大嬢歌

二首

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

大伴宿禰家持和歌一首

在久邇京思留寧樂宅舊京坂上大嬢大伴

宿禰家持作歌

藤原郎女聞之即和歌一首

大伴宿禰家持更贈大嬢歌二首

大伴宿禰家持報贈紀女郎歌一首

大伴宿禰家持從久邇京贈坂上大嬢歌五

首

大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

紀女郎報贈家持歌一首

大伴宿禰家持更贈紀女郎歌五首

紀女郎異物贈友歌一首

大伴宿禰家持贈娘子歌三首

大伴宿禰家持報贈藤原朝臣久須麻呂歌

二首

又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首

藤原朝臣久須磨來報歌二首

河上乃伊都藻之花乃何時何時來益我背子

時自異目八方

田部忌寸櫟子任太宰時歌四首

衣手爾取等騰已保里哭兒爾毛益有吾乎置

而如何將為

置而行者妹將戀可聞敷細乃黑髮布而長此

夜乎

吾妹兒矣相令知人乎許曾戀之益者恨三念

朝日影爾保散流山爾照月乃不厭君乎山越

爾置手

柿本朝臣人麻呂歌四首

三熊野之浦乃濱木綿百重成心者雖念直不

相鴨

古爾有兼人毛如吾歟妹爾戀乍宿不勝家牟

今耳之行事庭不有古人曾益而哭左倍鳴四

百重二物來及龜常念鴨公之使乃雖見不飽

夫木

今使たあといふ云々甚の及たかきりて七月夜鳴り初の形木綿の

同業為廣抄三合人吉事

田部忌寸櫟子

上三ツハ其時ノ景ニ照月乃ハ不厭ノ序ノミニ

以上五十九上尾上

有哉有哉

碁檀越往伊勢國時留妻作歌一首

神風之伊勢乃濱荻折伏客宿也將為荒濱邊

爾

柿本朝臣人麻呂歌三首

未通女等之袖振山乃水垣之又時從憶寸吾

者

夏野去小牡鹿之角乃東間毛妹之心乎忘而

念哉

珠衣乃狹藍左謂沉家婦爾物不語來而思立

津裳

柿本朝臣人麻呂妻歌一首

君家爾吾住坂乃家道乎毛吾者不忘命不死

者

安倍女郎歌二首

今更何乎可將念打廢情者君爾縁爾之物乎

為廣抄三卷...

為廣抄云...

古事記...

ワカセ ハ モノナオモヒソコトシ アラハヒ ニ モ ミツニ モ ワレ
吾背子波物莫念事之有者火爾毛水爾毛吾

莫七國

駿河嫁女歌一首

敷細乃枕從久久流淚二曾浮宿乎思家類戀

乃繁爾

三方沙彌歌一首

衣手乃別今夜從妹毛吾母甚戀名相因乎奈

羨

舟比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首

短歌

臣女乃匣爾乘有鏡成見津乃濱邊爾狹舟頰

相紐解不離吾妹兒爾戀乍居者明晚乃旦霧

隱鳴多頭乃哭耳之所哭吾戀流千重乃一瞞

母名草漏情毛有哉跡家當吾立見者青琪乃

葛木山爾多奈引流白雲隱天佐我留夷乃國

邊爾直向淡路乎過粟島乎背爾見管朝名寸

古今事類考
卷之四
三十一

天臨海鏡
卷之四
三十一

冠許考
卷之四
三十一

有香裳

阿倍女郎歌一首

ワカセ コカキセ ル コロモノ ハリメ キキス イリニ ケラ レナ
吾背子之 盖世流衣之 針目不落入爾家良之

我情副

中臣朝臣東人贈阿倍女郎歌一首

ヒトリ子 テ アエニ レヒモヲ ユハニミト セム ス ハ レラニ 子ノミ
獨宿而 絕西紐緒 忌見跡 世武為便 不知哭耳

之曾泣

阿倍女郎答歌一首

ワカモ タルミツアヒニ シレル イトモチテ ツケテ シモライモツ
吾以在 三相二搓流 絲用而附手 益物今曾悔

寸

大納言兼大將軍大伴卿歌一首

サカキニ モテ ハフル フラ ヲツタヘニ ヒトツト イハハ フレ
神樹爾毛手者觸云乎 打細丹人妻跡云者不

觸物可聞

石川郎女歌一首

カスカ ソダ ハ ヤニヘノ ミナヲ ヨソリ ナクカヨヒニ キニカ ミエ
春日野之 山邊道乎 與曾理無通之君 我不所

見許呂香裳

下四下
石上ハ
ニ将因哉

糠

宇合ハ不
三子ハ聖武
十三ハ三子
詞武部卿
之弟一子也
と云ハハハ
ハハハハハ

大伴女郎歌一首

今城王之母也今城王後賜大原真人氏也

アニカハリツ子スルキ三八
ヒサカタノヨフヘノアメニ
コリニナムカモ
雨障常為公者久堅乃昨夜雨爾將懲鴨

後人追同歌一首

ヒサカタノアメモ
フラヌカアニツ、ニ
キニニ
タクヒテコノヒ
クラサム
久堅乃雨毛落糠雨乍見於君副而此日令晚

藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌

藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌
常陸国ノ娘子
元正天皇三年七月始置按察使乃至常陸国守正五位上藤原朝臣宇合常陸房上佐下佐三國
懐成藤原云正位式アハ藤原宇
合常陸房七言在常陸國條判官留在京一書并序

庭立麻手刈干布慕東女乎忘賜名

京職大夫藤原大夫賜大伴良女歌三首

嬖孀等之珠篋有玉櫛乃神家武毛妹爾阿波
受有者
ヨクワタルヒトハ
トシニモ
アリキフヲ
イツノミニ
ソモ
ワカコヒニケル
好渡人者年母有云乎何時間曾毛吾戀爾來

烝被奈胡也我下丹雖卧與妹不宿者肌之寒
霜

大伴郎女和歌四首

狹穗河乃小石踐渡夜干玉之黑馬之來夜者

年爾母有糠糠

年爾母有糠糠

千鳥鳴佐保乃河瀬之小浪止時毛無吾戀爾
將來云毛不來時有乎不來云乎將來常者不
待不來云物乎
千トリナクサホノカハセノサレナニヤムトキモナレワカコフラニ
コムトイフモコヌトキアルヲコレトイフヲコムトハニタ
レコトイフモノヲ

千鳥鳴佐保乃河門乃瀬乎廣彌打橋渡須奈
我來跡念者
カクク十申モハ

右郎女者佐保大納言卿之女也初嫁一
品穗積皇子被寵無儔而皇子薨之後時
藤原麻呂大夫婿之郎女焉郎女家於坂

上里仍喚氏号曰坂上郎女也

又大伴坂上郎女歌一首

佐保河乃涯之官能小歷木莫刈鳥在乍毛張

之來者立隱金

天皇賜海上女王御歌一首

赤駒之越馬柵乃緘結師妹情者疑毛奈思

右今案此哥擬古之作也但以徃當便賜

斯歌歟

宣之由申麻
教胡之
柵柵越
ももも
とらり
せり

俗云み木
とらり
のり
し

古事記

二十

ウナカミ

海上女王奉和歌一首

志貴皇子之女也

事

アツサユミツニヒツヨトノトホトニモキミカミユキヲキクハニ
梓弓爪引夜音之遠音爾毛君之御幸乎聞之
ヨシモ
好毛

大伴宿奈麻呂宿禰歌二首 依保大御云第三之子也

ウチヒサスミヤニユクコヲマカサレミトムレハクルレヤレハス

打日指宮爾行兒乎真悲見留者苦聽去者為

便無
ナニハカタレホヒノナコリアクミテニヒトノミルコヲワレ

難波方益干之名疑飽左右二人之見兒乎吾

四乏毛

安貴王謠一首 并短歌

トホツミソコニアラチハタマホコノミキヲタトホミオモソラヤスカラ

遠孀此間不在者玉梓之道乎多遠見思空安

莫國嘆虛不安物乎水空往雲爾毛欲成高飛

鳥爾毛欲成明日去而於妹言問為吾妹毛事

事無為妹吾毛事無久今裳見如副而毛欲得

反歌

シキタヘノタマクニカスヘタテスキテトシソヘニケルアハヌキモヒハ

敷細乃手枕不纏間置而年曾經來不相念者

右安貴王娶因幡八上采女係念極甚愛

志貴皇子の女
大伴宿禰の第三子
難波方益干
四乏毛

天飛トハ
タカトフハ
天ヲ指テ
高ク
トス

萬葉集卷四

情尤盛於時勅斷不敬之罪退却本郷焉

于是王意悼怛取作此歌也

上ハ從到切傷下ハ割切非也

門部王戀歌一首

飲字能海之益于乃滴之片念爾思哉將去道
之求手呼

學 意字部 カリフコルシ 一水ヒノカタノカタオモヒニオモヒヤユカム三ナ

右門部王任出雲守時娶部内娘子也未
有幾時既絶往來累月之後更起愛心仍
作此歌贈致娘子

高田女王贈金城王歌六首

卷八の段ノ高田之ナセトアリ

事清甚毛莫言一日太爾君伊之哭者痛寸取

コトキヨクイタクモイハヒトヒタニキミイシナクハイタキハスソ

物

ヒトコトヲシセニコキタミアハサリキニロアルコトオモフナワカセ

他辞乎繁言痛不相有寸心在如莫思吾背

吾背子師遂常云者人事者繁有登毛出而相

麻志呼

吾背子爾復者不相香常思基今朝别之為便

無有都流

伊之ハ神代紀
支國地推之
時之推之

後居而戀乍不有者木國乃妹背乃山爾有益
物乎
モノヲ
キク井 テ コヒツ、アラス、ハ キノクニノ イモセ、ノ ヤニニ、アラミレ

吾背子之跡履求追去者木乃関守伊將留鴨
ワカセ コカ アトフニモトメヲヒユカハ キノ
此キモリヤイト、メムカモ

二年乙丑春三月辛三香原離宮之時得娘
子作歌一首并短歌

笠朝臣金村
沖田六モシカ

三香之原客之屋取爾珠梓乃道能去相爾天
クモノヨツノニミツ、コト、ハハ ヨレノ ナケレハ、コノロノニムセツ、アル

雲之外耳見管言將問縁乃無者情耳咽乍有
アメツチノカミ コトヨセテレキタモノ コモテ カヘテ

爾天地神祇辞因而敷細乃衣手易而自妻跡
タノメルコ ヨヒアキノヨノモ、ヨノ ナカサアルヨモ、モカモ

憑有今夜秋夜之百夜乃長有與宿鳴
反歌

天雲之外從見吾妹兒爾心毛身副縁西鬼尾
アムクモ、ヨソニミヨリワキモ コニ コロモ、ニサハヨリニシモノヲ

今夜之早開者為便乎無三秋百夜乎願鶴鴨
コノヨレハ、ハヤクアレハ、ス、ヘ、ヲ、ナ、ニ、アキノモ、ヨ、ヲ、子カヒツルカモ

五年戊辰太宰少貳石川足人朝臣遷任餞
ヨシヲ、ハヤアケヌレハ、

于筑前國蘆城驛家歌三首
アメツチノカミ、タス、クサ、クシ、カ、イ、ニ、イ、タ、マ、テ

天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右
アメツチノカミ、タス、クサ、クシ、カ、イ、ニ、イ、タ、マ、テ

史記傳馬王世
家云々、舍人
怪之以爲物而
同之注、南陰
曰、此以云物怪物
子、知、物、鬼、年
之、改、毛、乃

子筑前國蘆城驛家歌三首
アメツチノカミ、タス、クサ、クシ、カ、イ、ニ、イ、タ、マ、テ

天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右
アメツチノカミ、タス、クサ、クシ、カ、イ、ニ、イ、タ、マ、テ

仙注... 和氣... 吾君... 走良武奈... 舟生女王...

大船之念憑師君之去者吾者將戀名直相左

右二

山跡道之島乃浦迴爾縁浪間無年吾戀卷者

右三首作者未詳

大伴宿禰三依歌一首

吾君者和氣乎波死常念可毛相夜不相夜二

走良武奈

舟生女王贈太宰帥大伴卿歌二首

天雲乃遠隔乃極遠鷄跡裳情志行者戀流物

可聞

古人乃令食有吉備能酒痛者為便無貫等賜

牟

太宰師大伴卿贈大貳丹比組守卿遷任民

部卿歌一首

為君釀之待酒安野爾獨哉將飲友無二思手

賀茂女王贈大伴宿禰三依詞一首

仙注... 仙注私... 仙注...

ツクレ フ子マタモ コサレ ハアラカレタラブルキニヲ ミルカ カナキ
筑紫船未毛不來者豫荒振公乎見之悲左
イマタモコ子ハ カチヨリ 野ノハ三條筑紫舟ノ東ノ河チ下ニテスルカトノヲル

土師宿禰水通從筑紫上京海路作歌二首
オホフ子ヲ コキノ スミニ イハニ フルカヘラハ カヘレイモニ ヨリテハ

大船乎撈乃進爾磐爾觸覆者覆妹爾因而者
チハヤフルカミノ ヤロニ ワカカケレ ヌサハ タハラムイモニ アハナク

千磐破神之社爾我掛師幣者將賜妹爾不相
ニ 御物のほしあやめあふらふてはとてつゝ。こゝにのりあふらふてはとてつゝ。

國

太宰大監大伴宿禰百代戀歌四首

事毛無生來之物乎老奈美爾如此戀了毛吾
ハ アヘルカモ コトモ ナクアリコシ モノヲシヒナガカニコヒニモワレ ハアヘルカモ

者遇流香聞

孤悲死牟後者何為牟生日之為社妹乎欲見
コヒ シナムノチハ ナニヒ ム イハルヒ ノタメコソイモヲ ミクホリ

為禮

不念乎思常云者大野有三笠杜之神思知三
オモハヌヲオモフトイハ、 オホノ ナルニ カサノモリノ カミシ シラミ

無暇人之眉根乎徒令搔乍不相妹可聞
イハニキヒトノ ムユチ シイタツニカサノモリノイモカ モアハヌイモカ

大伴坂上郎女歌二首

黑髮二白髮交至者如是有戀庭未相爾
クロカミニニ シロカミニニシテカハル コヒニハヤマタムナクニ

山管乃實不成事乎吾爾所依言禮師君者與
トカ ヌ ラム 山管乃實不成事乎吾爾所依言禮師君者與

孰可宿良牟

在

物産抄云拾遺集の下の句は...

巻二...

物産抄云昨日見...

古内集卷四

二六

賀茂女王歌一首

大伴乃見津跡者不云赤根指照有月夜爾直相在登聞

太宰大監大伴宿禰百代等贈驛使歌二首

草枕羈行君乎愛見副而曾來四鹿乃濱邊乎

右一首大監大伴宿禰百代

周防在磐國山乎將超日者手向好為與荒其道

右一首少典山口忌寸若麻呂

以并天平二年庚午夏六月帥大伴卿忽

生瘡脚疾苦枕席因此馳驛上奏望請庶

弟稻公姪胡麻呂欲語遺言者勅右兵

庫助大伴宿禰稻公治部少丞大伴宿禰

胡麻呂兩人給驛發遣令看卿病而運數

旬幸得平復于時稻公等以病既療發府

上京於是大監大伴宿禰百代少典山口

忌寸若麻呂及郷男家持等相送驛使共

到夷守驛家聊飲悲別乃作此歌

太宰帥大伴卿被任大納言臨入京之時府

官人等餞卿筑前國蘆城驛家歌四首

三埼迴之荒磯爾縁五百重浪立毛居毛我念

流吉美

右一首筑前掾門部連石足

平人之衣染云紫之情爾染而所念鴨

山跡邊君之立日乃近者野立鹿毛動而曾鳴

右二首大典麻田連陽春

月夜吉河音清之率此間行毛不去毛遊而將

歸

右一首防人佐大伴四綱

太宰帥大伴卿上京之後沙彌滿誓賜卿歌

二首

真十鏡見不飽君爾所贈哉旦夕爾左備下將

居

野了玉之黒髮變白髮衣裳痛戀庭相時有來

大納言大伴卿和歌二首

此間在而筑紫也何處白雲乃棚引山之方西

有良思

草香江之入江二求食蘆鶴乃痛多豆多頭思友無二指天

太宰帥大伴卿上京之後筑後守高井連大

成悲嘆作歌一首

從今者城山道者不樂牟吾將通常念之物乎

大納言大伴卿新袍贈攝津大夫高安王歌

一首

吾衣人莫著曾網引為難波壯士乃手爾者雖

觸

大伴宿禰三依悲別歌一首

天地與共久住波牟等念而有師家之庭羽裳

金明軍與大伴宿禰家持歌二首

明軍者大納言卿之預置人也

奉見而未時太爾不更者如年月所念君
足引乃山爾生有管根乃慙見卷欲君可聞

大伴坂上家之大娘報贈大伴宿禰家持歌

四首

生而有者見卷毛不知何如毛將死與妹常夢
所見鶴
丈夫毛如此戀家流乎幼婦之戀情爾比有目

八方

徙

月草之徒安久念可母我念人之事毛告不來
春日山朝立雲之不居日無見卷之欲寸君毛
有鴨

大伴坂上郎女歌一首

出而將去時之波將有乎故妻戀為乍立而可
去哉

大伴宿禰稻公贈田村大嬢歌一首

大伴宿禰麻呂之世也

アロミス ハコヒサラ マレヲ イモヲ ミテモトナ カタ ノミ
不相見者不戀有益乎妹乎見而本名如此耳
コヒハ イカ、世ム
戀者奈何將爲
ハカチ

右一首姉坂上郎女作

笠女郎贈大伴宿禰家持歌廿四首

ワカカタミミ ツ、レソヌ ハセ アラタノトレノ ヲ ナカクワレモ 戈モ
吾形見見管之努波世荒珠年之緒長吾毛將

思 大和のゆゑみちの山松の待つる羽のあはれ
レロトリノ トハ ヤニミツノ ニキツ、ソ ワカコヒタルコノツキコロヲ

白鳥能飛羽山松之待乍曾吾戀度此月比平
コロモテ ヲ 折上りのもまたちの山松の待つる羽のあはれ ヲ 折上りのもまたちの山松の待つる羽のあはれ ヲ

衣手乎打迴乃里爾有吾乎不知曾人者待跡

不來家留 後見物家工つとていかにしるし山松の待つる羽のあはれ
アラタノトレノ ヘ ユケハ イミレハ ト コメヨ ワカセ コ ワカナ

荒玉年之經去者今師波登勤與吾背子吾名
ツケスナ ツケスナ ナ ツケスナ ナ ツケスナ ナ

告爲莫 ツケスナ ナ ツケスナ ナ ツケスナ ナ

吾念乎人爾令知哉玉匣開阿氣津跡夢西所
ワカキモヒラ ヒトニ レラ ワカキモヒラ ヤ タマクシゲヒキア ケツト ヌメニシニニ

見 ワカキモヒラ ヒトニ レラ ワカキモヒラ ヤ タマクシゲヒキア ケツト ヌメニシニニ

闇夜爾鳴奈流鶴之外耳聞乍可將有相跡羽
クニキヨニ ナクナ ル タツノ ヨツノニキ、ツ、カ アラム アフーハ

奈之爾 クニキヨニ ナクナ ル タツノ ヨツノニキ、ツ、カ アラム アフーハ

君爾戀痛毛爲便無見櫛山之小松下爾立嘆
キニニ コヒイトモ スーナニ キニニ ナラヤミノコ キニニ ミツカレタニ キニニ タキナケク

仙位
うらたの里
折廻

津流

不相念人乎也本名白細之袖漬左右二哭耳

四泣裳

吾背子者不相念跡裳敷細乃君之枕者夢爾

見乞

劍太刀名惜雲吾者無君爾不相而年之經去

禮者

從蘆邊滿來塩乃彌益荷念歟君之忘金鶴

大神女郎贈大伴宿禰家持歌一首

狹夜中爾友喚千鳥物念跡和備居時二鳴乍

本名

大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌

押照難波乃管之根毛許呂爾君之聞四乎年

深長四云者真十鏡磨師情乎縱手師其日之

極浪之共靡珠藻乃云云意者不持大船乃憑

有時丹千磐破神哉將離空蟬乃人與禁良武

古事類聚卷四

三十三

赤引
十五朱引
十六朱引
十七朱引
十八朱引
十九朱引
二十朱引
二十一朱引
二十二朱引
二十三朱引
二十四朱引
二十五朱引
二十六朱引
二十七朱引
二十八朱引
二十九朱引
三十朱引
三十一朱引
三十二朱引
三十三朱引
三十四朱引
三十五朱引
三十六朱引
三十七朱引
三十八朱引
三十九朱引
四十朱引
四十一朱引
四十二朱引
四十三朱引
四十四朱引
四十五朱引
四十六朱引
四十七朱引
四十八朱引
四十九朱引
五十朱引

通為君毛不來座玉梓之使母不所見成奴禮
 婆痛毛為便無三夜于玉乃夜者須我良爾赤
 羅引日母至闇雖嘆知師乎無三雖念田付乎
 白二幼婦常言雲知父手小童之哭耳泣營
 徊君之使乎待八兼手六
 反歌
 從元長謂管不念恃者如是念二相益物歟
 西海道節度使判官佐伯宿禰東人妻贈夫

君歌一首

無間戀爾可有牟草枕客有公之夢爾之所見

佐伯宿禰東人和歌一首

草枕客爾久成宿者汝乎社念莫戀吾妹

池邊王宴誦歌一首

松之葉爾月者由移去黃葉乃過哉君之不相

夜多鳥

天皇思酒人女王 御製歌一首

萬葉集卷四

三十一

今マラハ葉ニ
ウケリタ目ヲ
散スキヲ秘ミテ
ツレニハカクイ
カケシクカクイ

夜多鳥
天皇思酒人女王
御製歌一首

道相而咲之柄爾零雪乃消者消香二戀云吾妹

高安王畏鮒贈娘子歌一首

奥幣往邊去伊麻夜為妹吾漁有藻卧束鮒

八代女王厭 天皇歌一首

君爾因言之繁乎古鄉之明日香乃河爾繫身

為爾去

一尾云龍田超三津之濱邊爾繫身四二

由久

娘子報贈佐伯宿禰赤麻呂歌一首

吾手本將卷跡念牟大夫者戀水定白髮生二

有

佐伯宿禰赤麻呂和詞一首

白髮生流事者不念戀水者鹿煮藻闕二毛求

而將行

大伴四網宴席歌一首

孝徳天皇三年三月四年
發天代世王物
化

上評 恋煩 既師之雨 寒日 日

酒めさるるのこころ 恋 覚 覚

天平四年より

カハニ ミソキ

タツタ コエミ ツノハニニ ミソキニニ

宣 三三三三 娘子 行カ又前より 贈り 贈カ
ワカタ モトニカム ト オモハム ミスララハ ナミタニニツミラカ オヒニ
タリ 又ウ袖と抱みせんといふやうにハハ袖よびなす
有 のをいふとこ 沖

テ ユ一カム 娘のうら白髪生るるをいふとこ 沖

繩

萬葉集卷四

三十一 六

戀始

紀女郎怨恨歌三首

世間之、女爾思有者、吾渡痛背乃河乎、渡金目

八、今者吾羽、和備曾四二結類、氣乃緒爾、念師君

乎、縱左思者、白妙乃袖、河別日乎、近見心爾、咽飲哭耳、四所

流泣、

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

丈夫之思和備、遍多嘆、父嘆乎、不負物可聞

大伴坂上郎女歌一首

心者忘日無久、雖念人之事、社繁君爾、阿禮

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

不相見而氣長、父成奴、比日者、奈何好去哉、言

借吾妹

大伴坂上郎女歌一首

大伴坂上郎女歌六首

ワレノミソ キニニハ コフル ワカセ コカ コフコトハ コトノ
吾耳曾君爾者戀流吾背子之戀云事波言乃
名具左曾

不念常日手師物乎翼醉色之變安寸吾意可
雖念知僧裳無跡知物乎奈何幾許吾戀渡

聞

豫人事繁如是有者四惠也吾背子與裳何如
荒海藻

仙道注 先達
唐楓花を秋
スル各云説
リ或云庭櫻
或云木花或云
木蓮花ト云リ
為唐物木芙蓉
色赤朱花ト云
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
五ハハハハハハ

汝乎與吾乎人曾離奈流乞吾君人之中言聞
起名湯目

戀戀而相有時谷愛寸事盡手四長常念者

市原王歌一首

網兒之山五百重隱有佐堤乃埒左手蠅師子
之夢二四所見

安部宿禰年足歌一首

佐穗度吾家之上二鳴鳥之音夏可思吉愛妻

大伴坂上郎女歌六首

大伴坂上郎女歌六首

大伴坂上郎女歌六首

之兒

大伴宿禰像見歌一首

石上零十方雨二將関哉妹似相武登言義之

鬼尾

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

向座而雖見不飽吾妹子二立離往六田付不

知毛

大伴坂上郎女歌二首

不相見者幾久毛不有國幾許吾者戀乍裳荒

鹿

戀戀而相有物乎月四有者夜波隱良武須史

羽蟻待

右大伴坂上郎女之母石川内命婦與安

倍朝臣蟲滿之母安曇外命婦同居姊妹

同氣之親焉縁此郎女蟲滿相見不踈相

談既密聊作戲歌以為問答也

上六
兩障

新編卷四

四十一

養虎園子見那

厚見王詞一首

アサニ
朝爾日爾色付山乃白雲之可思過君爾不有

春日王歌一首

アヒヒキノヤマタチハナクイロニ
足引之山橘乃色丹出而語言繼而相事毛將

湯原王歌一首

ツキヨミノヒカリニ
月讀之光二來益足疾乃山乎隔而不遠國

和歌一首

ツキヨミノヒカリハ
月讀之光者清雖照有感情不堪念

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

ツツ
倭父手纏數二毛不有壽持奈何幾許吾戀渡

大伴坂上郎女歌二首

ツカミトキレコロヲ
真十鏡磨師心乎縱者後爾雖云驗將在八方

真玉付彼此兼手言齒五十戸常相而後社悔

二破有跡五十戸

倭父ハ知布
と者ハ知布
の信ハ知布
イニシノシツラ
タマキイヤシキモ
シツキル故ニ
キヲミツトモ
云ハワロシ
大君ノ御帶
ノミツハタムス
レトカカラハヤ
フナキホサ
モセシ

中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首

娘子部ヲミナヘシ四ナキ咲澤サハニ二生流オフル花勝見ハナカツミ都毛不知カツテモ戀裳シラヲ裳コヒモ
スルカモ
摺可聞ウタ
海底與乎深目手吾念有君二波將相年者經

十方トモ
春日山朝居雲乃鬱不知人爾毛戀物香聞
直相而見而者耳社靈剋命向吾戀止眼
不欲常云者將強哉吾背管根之念亂而戀管

母將有
大伴宿禰家持與交遊別歌三首
蓋毛人之中言聞可毛幾許雖待君之牙來益
中々爾絕年云者如此許氣緒爾四而吾將戀

大伴坂上郎女歌七首

將念人爾有莫國懃情盡而戀流吾毳
謂言之恐國曾紅之色莫出曾念死友

八方

謂言之恐國曾紅之色莫出曾念死友

謂言之恐國曾紅之色莫出曾念死友

而

河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首

波都波都爾人乎相見而何將有何日二箇又

外二將見

夜于玉之其夜乃月夜至于今日吾者不忘無

間皆思念者

巫部麻蘇娘子歌二首

吾昔子乎相見之其日至于今日吾衣手者乾

時毛奈志

栲繩之求命乎欲苦波不絕而人乎欲見社

大伴宿禰家持贈童女歌一首

葉根蘩今為妹乎夢見而情内二戀度鴨

童女來報歌一首

葉根蘩今為妹者無四乎何妹其幾許戀多類

栗田娘子贈大伴宿禰家持歌二首

思遣為便乃不知者片垵之底曾吾者戀成爾

家類

復毛將相因毛有奴可白細之我衣手二齋留

目六

豐前國娘子大宅女歌一首

夕闇者路多豆多頭四待月而行吾背子其間

爾母將見

安都麻娘子歌一首

三空去月之光二直一月相三師人之夢西所

見

丹波大娘子歌三首

鴨鳥之遊此池爾木葉落而淨心吾不念國

味酒呼三輪之祝我忌枚手觸之罪歟君二遇

難寸

垣穗成人辭聞而吾背子之情多由多比不合

頃者

大伴宿禰家持贈娘子歌七首

情爾者思渡跡縁乎無三外耳為而嘆曾吾為
千鳥鳴佐保乃河門之清瀬乎馬打和多思何

時將通

夜晝云別不知吾戀情蓋夢所見寸八

都禮毛無將有人乎符念爾吾念者感毛安流

香

不念爾妹之咲儂乎夢見而心中二燎管曾呼

留

丈夫跡念流吾乎如此許三禮二見津禮片思

男責

村肝之於摧而如此許余戀良苦乎不知香安

類良武

獻 天皇歌一首

足引乃山二四居者風流無三吾為類和射乎

害月賜名

大伴宿禰家持歌一首

カクハカリコヒツハアラスハイハキニモナラマシモノヲモノキモ
如是許戀乍不有者石木二毛成益物乎物不
思四手

大伴坂上郎女從跡見庄賜留宅女子大

嬢歌一首并短歌

常呼二跡吾行莫國小金門爾物悲良爾念有

之吾兒乃刀自緒野于玉之夜晝跡不言念二

思吾身者瘦奴嘆丹師袖左倍沾奴如是許本

名四戀者古郷爾此月期呂毛有勝益士

雄略記に於て云
不説遺跡跡
海至於大御
とて心なる
コトヲ名命
三毛野々令の
世に於ては
りもまかり
るも又ゆらぬ
黄泉の御
るも

反歌

朝髮之念亂而如是許名姊之戀曾夢爾所見

家留

右歌報賜大嬢歌也

天皇歌二首

二寶鳥乃潜池水情有者君爾吾戀情示左禰

外居而戀尔不有者君之家乃池爾住云鴨二

有益雄

為廣物云右歌一ハ字ハ初メニナキ本モアリを可也

ナハカミノ

オモヒミタレテ

カク

カガナ

キミ

ワカ

コト

モ

イ

ニ

ミ

エ

ト

フ

カ

モ

エ

ト

フ

カ

モ

エ

ト

萬葉卷四

五十一

大伴宿禰家持贈坂上家大嬢歌二首雖絶數年

為唐抄云後一作復後會相聞不首昔年之末ハ必爾也云爾二

萱草吾下紐爾著有跡鬼乃志許草事二思安

利家理糠の移り以後も糠の字用らるるありけり糠ヒトモ ナキクニモ アラヌカワキモコト

人毛無國母有粳吾妹兒與携行而副而將座

大伴坂上大嬢贈大伴宿禰家持歌三首

玉有者手二母將卷乎鬱膽乃世人有者手二

卷難石

將相夜者何時將有乎何如為常香彼夕相而

事之敏裳

吾名者毛千名之五百名爾雖立君之名立者

惜社泣

又大伴宿禰家持和歌三首

今時有四名之惜雲吾者無妹丹因者千遍立

十方

空蟬乃代也毛二行何為跡鹿妹爾不相而吾

ヒトリ 子ム
獨將宿

ワカオモヒ カク ①テアラヌ ハ タニモ カゴトモ イモカテニ
吾念如此而不有者玉二毛我真毛妹之手二
所纏牟 マカレ ナム
マトハレム

同坂上大嬢贈家持歌一首

カス カヤニ 坂上人との情を念ふまはとて ヒキコ ①テアラヌ ク テレルツキヨ ニ ヒトリモ 子ム
春日山霞多奈引情具又照月夜爾獨鴨念
まよひかたの情を念ふまはとて

又家持和坂上大嬢歌一首

ツキヨ ニ ハカトニ イテタチユフケ トヒア ①ツラソ ソセ レユカマク
月夜爾波門爾出立夕占問足ト乎曾為之行
ツキヨニ ハカトニ イテタチユフケ トヒア ①ツラソ ソセ レユカマク
乎欲焉 ツキヨニ ハカトニ イテタチユフケ トヒア ①ツラソ ソセ レユカマク

同大嬢贈家持歌二首

カニカクニヒトハ イフトモ ワカサチノ ノキセノヤミノ ノキモ アハム
云々人者雖云若狹道乃後瀬山之後毛將念
カニカクニヒトハ イフトモ ワカサチノ ノキセノヤミノ ノキモ アハム
君 キミ

ヨノナカノ クルキモ ノニ アリケ ラク コヒニ タニス テ レヌ ヘ 死念
世間之苦物爾有家良父戀二不勝而可死念
ヨノナカノ クルキモ ノニ アリケ ラク コヒニ タニス テ レヌ ヘ 死念
者 ハ

又家持和坂上大嬢歌二首

ノキセ ヤミノ ノキモ アハム ト オモフコソ レヌ ヘ キモノ ヲ ケフ マテ モ
後瀨山後毛將相常念社可死物乎至今日毛
ノキセ ヤミノ ノキモ アハム ト オモフコソ レヌ ヘ キモノ ヲ ケフ マテ モ
生有 ア ケレ

コトノミヲノチモアハムト子モヨニワレヲタノメテアハサラ又勸
事耳乎後手相跡懃吾乎今憑而不相可聞
アハサラ又勸 有又相ノ旨の悦カ

更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首

夢之相者誓有家里覺而搔探友手二毛不所
サトヒテ 夢中を越仙窓の中時睡別夢見十娘盤覺攪之忽然空手ノ毛二毛不所

觸者
ヒトヘノミイモカムスビシキヒヲスラフニ 文選古詩を帶ハベクワカニハナリヌ

一重耳妹之將結帶乎尚三重可結吾身者成
ワカコヒハチヒキノイシヲナハカリクヒニカムニテモカミノモロ

吾戀者千引乃石乎七許頸二將繫母神之諾
コヒレケム 吾を頸ニ引クコトヲ七許ノ頸ニ繫ムコトヲ母ノ神ノ諾

伏
ユフサレハヤトアケメケテワレマタムイメニアヒミニコムト

暮去者屋戸開設而吾將待夢爾相見二將來
コトノミヲノチモアハムト子モヨニワレヲタノメテアハサラ又勸

云比登乎

朝夕二將見時左倍也吾妹之雖見如不見由
アサヨフニミムトキサヘヤワキモコカミレトミヌコトナラ

戀四家武

生有代爾吾者未見事絶而如是何怜縫流囊
イケルヨニワレハイタミスコトタエテカクアハレケニヌヘルフ名

者

吾妹兒之形見乃服下著而直相左右者吾將
ワキモコカカタミノコロモシタニキテタミアフニテハワレヌカ

脱八方

戀死六其毛同曾奈何爲二人目他言辞痛吾
コヒレナムソレモオチレソ十二セムニヒトメヒトコトコチタクワレ

將為

夢二谷所見者社有如此許不所見有者戀而

死跡香

念絶和備西物尾中之爾奈何辛苦相見始兼

相見而者幾日毛不經乎幾許又毛又流比爾

又流必所念鴨

如是許面影耳所念者何如將為人目繁而

相見者須更戀者奈木六香登雖念彌戀益來

夜之穗杼吕吾出而來者吾妹子之念有四九

四面影二三湯

夜之穗杼吕出都追來良久遍多數成者吾宵

截燒如

大伴田村家之大嬢贈妹坂上大嬢歌四首

外居而戀者皆吾妹子乎次相見六事計為與

遠有者和備而毛有乎里近有常聞乍不見之

為便奈沙

白雲之多奈引山之高々二吾念妹乎將見因

毛我母

何時爾加妹乎牟具良布能穢屋戸爾入將座

右田村大嬢坂上大嬢并是右大辨大伴

宿奈麻呂郷之女也卿居田村里号曰田

村大嬢但妹坂上大嬢者母居坂上里仍

日坂上大嬢了時姊妹諮問以歌贈答

大伴坂上郎女從竹田庄贈賜女子大嬢歌

二首

打渡竹田之原爾鳴鶴之間無時無吾戀良久

波

早河之湍爾居鳥之縁乎奈彌念而有師吾兒

羽裳何怜

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首女郎名曰

神左夫跡不欲者不有八也多八如是為而後

二佐夫之家牟可聞

神左夫等
不許者不有秋
草之結之紀
半解者悲矣

仁徳化于知
ハヤカハノセニ井ルトリノヨエラナシオモヒテアリレワカコ

申後ハ後ニ
能クテ有ルハ
スアリキハ
ハシムルナリ

六帖ニハ先ニ
申後ハ後ニ
能クテ有ルハ
スアリキハ
ハシムルナリ

玉緒乎沫緒二搓而結有者在手後二毛不相

在目八方

大伴宿禰家持和歌一首

百年爾老舌出而與余牟友吾者不厭戀者益

友

在久邇京思留寧樂宅坂上大嬢大伴宿禰

家持作歌一首

一 關山重成物乎月夜好見門爾出立妹可將

待

藤原郎女聞之即和歌一首

路遠不來常波知有物可良爾然曾將待君之

目乎保利

大伴宿禰家持更贈大嬢歌二首

都路乎遠哉妹之比來者得飼飯而雖宿夢爾

不所見來

今所知久邇乃京爾妹二不相久成行而早見

五十一

五十一

奈

大伴宿禰家持報贈紀女郎歌一首

久堅之雨之落日乎直獨山邊爾居者鬱有來

大伴宿禰家持從久邇京贈坂上大嬢歌五

首

人眼多見不相耳曾情左倍妹乎忘而吾念莫

國

偽毛似付而曾為流打布裳真吾妹兒吾爾戀

目八

夢爾谷將所見常吾者保村毛友不相志思諾

不所見武

事不問木尚味狹監諸弟等之練乃村戸二所

詐來

百千遍戀跡云友諸弟等之練乃言羽志吾波

不信

大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

萬葉集卷四

五十七

為唐抄三卷
集部第廿卷
二コトシニミタ
ナナナナニ小山田
ト云ハ此奇ミテ

鶉鳴故鄉從念友何如裳妹爾相縁毛無寸

不 紀女郎報贈家持歌一首

事出之者誰言爾有鹿小山田之苗代水乃中

與杼爾四手

大伴宿禰家持更贈紀女郎歌五首

吾妹子之屋戸乃笛守見爾往者蓋從門將返

却可聞

打妙爾前垣乃酢堅欲見將行常云哉君乎見

爾許曾

板蓋之黒木乃屋根者山近之明日取而持將

參來

黒樹取草毛刈乍仕目利勤知氣登將譽十方

不在一云仕

野于玉能昨夜者令還今夜左倍吾乎還莫路

之長手呼

紀女郎異物贈友歌一首女郎名曰小鹿

萬葉集卷四

五十一

カセタカニニハ フケトモイモカタヌソテサヘ
又レテカレル タメモ
風高邊者雖吹為妹袖左倍所沾而刈流玉藻

鳥ツノ 鳥ツノ 鳥ツノ

大伴宿禰家持贈娘子歌三首

前年之先年從至今年戀跡奈何毛妹爾相難
打乍二波更毛不得言夢谷妹之手李乎纏宿

常思見者

吾屋戸之草上白久置露乃壽母不有情妹爾
不相有者

大伴宿禰家持報贈藤原朝臣久須麻呂歌

春之雨者彌布落爾梅花未咲久伊等若美可

聞

如夢所念鴨愛八師君之使乃麻禰久通者

浦若見花咲難寸梅乎殖而人之事重三念曾

吾為類

又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首

